

入傍ニ在テ申ル、イヤ左様ニハ有ルベカラズ、昔モ弱キ人ハ先キヘ死シ、強キ人ハ殘レリ、今モ弱キ人ハ先キヘ死シ、強キ人殘ルベシ、サレバ後世ノ人ハ、又今ノ人ヲ昔ノ人トシテ、強クシテ長命也トイハン、人生ニ於テ何ゾ今昔ノ變リ有ンヤ、既ニ聖人モ七十古來稀レ也ト云給ヘリ、人命ノ長短ハ、古今同ジカルベシトイヘリ、

〔閑際筆記^上〕大僧正天海、年百四十、乃言恬淡緩慢、コレ吾延壽ノ法ナリト、余^{○藤}不[○]信[○]之、壽天是命ナリ、恬淡無欲ナルハ、人ト艸木ト孰カ異、艸木壽歲ヲ不踰アリ、人百歲ニ至テモ且世ニ處ヲ見、緩慢々地過來テ、天ナルアリ、急々遽々裏々過去テ壽アリ、或ハ日々ニ意ヲ用テ、老年ニ猶健ニ、或ハ心中ニ事寡シテ、少壯ヨリモ病ノ多シテ怯弱ナルアリ、皆此命ナリ、

〔塵塚談^下〕江戸住居の者に、遠國出生のものと、江戸出生の者と夫妻になれる者あり、江戸の者は先に死し、遠國のものは後に死る多しといへり、さもあらんか、江戸出生は嬰兒より厚味を喰ふが故に腸胃も虚弱にして元氣充實ならざれば、短壽にして長くたもちがたしと思はるなり、

〔西遊記〕壽天

予^{○南}南[○]諸國をめぐり試るに、山中の人は長命なり、海邊の人は短命なり、京都の人は癱疔の如き腫物類は甚稀なり、長崎には甚多くして、京都の三増倍五増倍ともいふべし、其由來を考ふるに、食物の事にあり、山中の人は魚肉なければ、常に芋大根の類のみを食す、もし年始節句其外祝ひ日といへども、富る者も纔に鹽肴乾物には不過、其上に高山深谷に登り下りて、耕作に身を勞し、纔に麥飯に饑をしのぐ、倉食にして身を動く故に長命にて無病なり、海邊の人は魚肉に飽滿て、飯のかはりにも、魚を食し、船の出入有りて諸國の運漕よろしければ、飯は其米自由なるゆへに、貧しき者もついに麥飯などは食せず、其上に山坂の働の苦勞は無く、船にて往來やすらかにして、魚鹽の利ゆたかなれば、自然と身も安くして美しよくくらす故、病身にして短命なり、猶又